

基調講演 ダンス・ウィズ・ジャイアンツ -- 中国・インドの輸出拡大との共存 (特集 国際シンポジウム -- 躍進するBRICs 虚像と実像)

著者	William John Martin
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	140
ページ	8-11
発行年	2007-05
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00005239

基調講演 ダンス・ウイズ・ジャイアンツ——中国・インドの輸出拡大との共存

ウイリアム・ジョン・マーティン

世界は急成長を続けるブラジル、ロシア、中国、インドのような巨大な途上国経済を支えることができるのだろうか。この問いに対して世界銀行の我々のチームは、中国とインドにしばって研究を進めてきた。

●中国・インドの輸出拡大は脅威か？

中国とインドは輸出の飛躍的拡大によって経済が急成長を続けている。両国の輸出拡大は、世界の国々にとどのような影響を与えるのだろうか。中国・インドの輸出拡大は国際競争を激化させ、東南アジア諸国などの輸出部門に打撃を与えたと警戒する声がしばしば聞かれる。しかし両国では輸出拡大の一方で輸入も拡大しており、それが世界の国々に輸出拡大の機会を与えているとも考えられる。

というのも、中国・インドの輸出は、少数の原材料輸出に特化するという古典的な途上国の輸出モデルとは異なり、国際分業ネットワークの一部を形成するものであるからである。そのため、中国・インドでの生産・輸出拡大は国際分業ネットワーク全

体を活性化させ、その結果他の国々が担っているネットワークの他の部分の生産・輸出の拡大をも促しているはずである。例えば、ある国が中国に中間財を供給している場合、中国の生産・輸出拡大はその国の輸出を脅かすことはなく、むしろその国の生産を拡大させるであろう。また中国が生産・輸出する投入財を輸入し、加工・組立している国にとっても、中国の輸出拡大は投入財の安価で安定的な調達を可能にするであろう。このように考えると、中国・インドの輸出拡大が他の途上国にとっておしなべて負の影響を与えるとは言えない。

●中国とインドの輸出経済の違い

中国とインドはいずれも労働集約的部門の輸出で急速に成長している。とはいえ、両国には差異が見られる。第一に、インドは中国よりもサービス貿易の割合が多い(図1)。中国のサービス輸出が輸出全体の一〇%前後を推移する一方、インドでは二五%を超えている。とくにインドのサービス輸出は一九九〇年代後半に急速に拡大したが、その多くはIT関連サービスの輸

出である。

中国とインドの輸出に見られる第二の違いは、中国は国際分業ネットワークに深く組み込まれているが、インドはそうではないという点である。図2は両国の輸入に占める部品の割合を示している。一九九二年には両国とも一五%程度と差がなかったが、インドが若干割合を減らす一方で中国は二〇〇二年には三〇%近くにまで拡大している。これは、中国の方がインドよりも国際分業ネットワークへの統合度合いが大きいことを示している。

第三に、中国とインドでは財輸出の構成も大きく異なる。六桁の貿易統計で輸出部門のシェア上位一五位をみると、両国ともに一五位以内に入っているのは石油・石油製品のみであり、それ以外は重複が見られない。中国の輸出の四割は機械類、電気・電子製品、およびそれらの部品である。一方インドでは貴石・宝石類、石油製品、鉄鉱石、精米などが上位を占める。このように、中国とインドの輸出構成は大きく異なっており、両国の輸出が第三国市場で競合することはないと考えられる。

図2 中国とインドの輸入に占める部品の割合

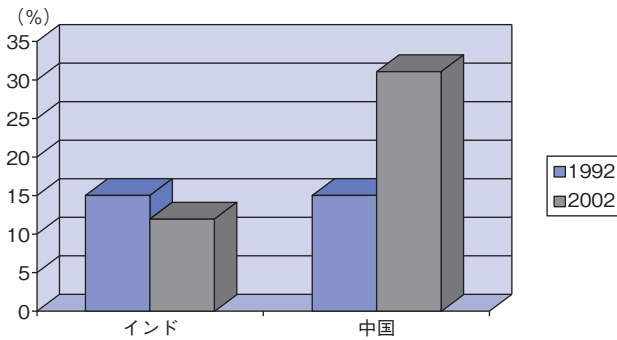
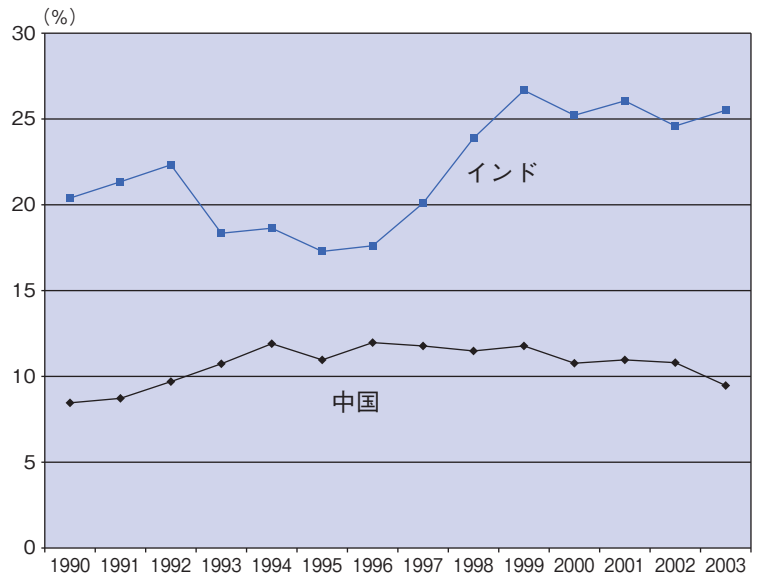


図1 輸出に占めるサービスの割合



●インドの国際分業ネットワークへの統合

ただし将来的にはインドも中国同様、国際分業ネットワークに組み込まれていくことが予想される。インドはサービス輸出の割合が高いとはいえ、製造業品の輸出も拡大している。近年米国では、中国製部品が席卷していた店先にインド製品が増えている。中国同様インドも国際分業ネットワークに組み込まれていくとすれば、インドは中国と同様の成長の道筋をたどるのであるのか。インドでは現在、国際分業ネットワークへの統合を促進するべく、経済改革が進められている。なかでも重要なのが非農業部門における貿易保護策の削減である。インド政府は、貿易自由化により国内の製造業部門の輸出競争力を引き上げ、製造業品の生産・輸出に立脚した経済を作り上げることを目指している。そのために、関税免除やドローバック制により、輸出業者が割安に中間財を輸入できるよう支援している。輸出向け製造業生産のために中間財を安く輸入するというのは、中国の成功の秘訣であると言われており、インドもこれを目指していると考えられる。

インド政府は、国内の輸送インフラ整備にも取り組んでいる。国際分業ネットワークへの統合のためには、輸送インフラの整備により輸送コストを低下させること、そして輸送時間を短縮することが不可欠である。

それは、完成品の輸出のみならず、中間財や部品の輸入においても重要になる。このような改革・施策の結果、将来的にはインドも中国のように国際分業ネットワークに組み込まれていくことが予想される。

●GTA P6の修正モデルによる分析

インドが今以上に世界経済に統合された場合、また輸出大国である中国とインドが急成長を続けた場合、お互いに、また他の国々にどのような影響を及ぼすのだろうか。これらの点を明らかにするために、我々はGTA P6の修正モデルを用いてシミュレーション分析を行った。

シミュレーションでは、まず二〇二〇年までに世界経済が実質年平均三・一%で成長すると予測し、それを基準シナリオとする。それに対して、次の三つのケースを比較分析する。一つは、中国とインドが基準シナリオを上回る、より高い経済成長を達成した場合である。二つめは、中国とインドが輸出財の品目（バラエティ）を増やしたり、品質を向上させた場合である。これは、輸出財の品目増加や品質向上が輸出量の拡大につながるという先行研究の成果を反映している。三つめは中国とインドが、資本集約的産業や技術集約型産業に傾斜した成長を達成した場合である。

インドは現在、グローバル経済への統合を進めるために様々な経済改革を実施して

表1 中国とインドが、より高い成長・輸出財の品質向上を達成した場合に世界各国のGDPに与える影響 (%)

	より高い成長	より高い成長と品質向上
オーストラリア・ニュージーランド	0.45	0.91
中国	39.90	43.60
日本	0.16	0.42
韓国	0.11	1.00
インドネシア	0.27	0.61
マレーシア	0.87	2.03
フィリピン	-0.57	-0.89
シンガポール	-1.68	-0.34
タイ	-0.31	0.24
ベトナム	-0.07	0.29
インド	33.70	36.70
米国	0.00	0.15
アルゼンチン・ブラジル	0.13	0.28
EU 25カ国	-0.04	0.18
サブサハラ・アフリカ	0.96	1.50
低所得国（インドを除く）	0.46	0.87
中所得国（中国を除く）	0.61	0.87
高所得国	0.03	0.28
世界	3.80	4.30

いるが、それらもモデルに取り込んだ。具体的には輸出向け製造業の輸入中間財に対する関税免除や、国際輸送コストの二〇％削減を目標としたインフラ整備などである。

●シミュレーションの結果

シミュレーションでは、経済改革の結果インドの製造業品輸出は大きく拡大すると結論が導かれた。経済改革の結果インドでは金属、機械、電子製品などの輸出シェアが拡大する一方、中国の輸出で現在中心的位置を占める繊維・アパレルなどの部門はインドの輸出ではむしろ若干シェアを落とす結果となった。すなわち、経済改革の結果インドは製造業品輸出を大幅に拡大させるが、中国との間で輸出品は競合しないという結果になった。

基準シナリオでは、二〇〇五～二〇二〇年の世界経済は年平均で三・一％、世界の貿易は三・七％で拡大すると推計している。この基準シナリオでは中国の年平均成長率を六・六％、インドは五・五％と推計している。また同時期の世界経済の成長に対する中国の貢献度は一五・八％、インドは四・一％、ブラジルは一・七％となり、これら三方国で世界の成長の二割を占めるという結果となった。

●中国・インドのより高い成長の影響

次に、中国とインドが右記の基準シナリ

オより高い成長を示した場合、また輸出財の品質を向上させた場合、他の国々にとどのような影響を与えるのかをシミュレーションした。表1は、より高い成長が達成された場合、そしてより高い成長が輸出財の品質向上を伴った場合の二つのケースのシミュレーション結果である。両国がより高い成長を示す場合、その最大の利益を受けるのは言うまでもなく彼ら自身であるが、他の国々も恩恵を受ける。これは両国が輸入を拡大させる結果、中国・インド向け輸出を拡大させるためである。近年中国需要に牽引されてアルゼンチンやブラジルが輸出を拡大しているのが好例であろう。また中国・インドの中間財輸出が拡大することで、それらを使う他の国々の製造業生産が拡大する。

このように中国・インドがより高い成長を達成すると、貿易を通してそのメリットを受ける国々がある一方で、第三国市場における輸出競争で両国に敗れて打撃を受ける国々も出てくる。東南アジア諸国の製造業部門、とくにアパレル部門が最も大きい打撃を受ける。

●輸出財の品質向上の影響

次に、中国・インドのより高い成長が品質向上をもなった場合についてみてみよう。ハメルス・クルノウの推計（二〇〇五年）によれば、輸出拡大の三分の二は新たな輸出品目の導入によるものである。また



ウィリアム・マーティン氏

輸出財の品質向上は需要を刺激し、その結果、輸血量を拡大しながら輸出価格も上昇するという結果をもたらす。

中国・インドの輸出財の品質が向上した場合、先にみた「より高い成長」が他の国々に与える影響、すなわち貿易を通して他の国にメリットが広がるプラスの影響と、第三国市場における競争激化のマイナスの影響のいずれもがより強く表れるというシミュレーション結果になった。また他の国々の貿易への影響についてみると、品質改善を織り込んだ場合、基準シナリオと比べて他の国々の輸出の成長率は〇・五ポイントほど高い結果となる。

中国・インドのより高い成長は、両国のみならず他の国々の産業構造にも影響を与える。中国とインドは、ほぼすべての製造業部門において大幅に生産を拡大する。他の国々への影響をみると、ほとんどの国々において、繊維・アパレル、皮革などの部門で生産が縮小する。国によっては電子や機械部門においても生産縮小がおこる。

●より高度な部門に傾斜した成長のケース

中国とインドでは現在、貯蓄率や投資率が上昇している。また教育レベルも上昇している。そうであれば、両国の成長が、資本集約的あるいは技術集約型産業に傾斜したものである可能性がある。これをモデル分析した先行研究では、金属、電子、機械、

自動車、商業サービスの五部門においてのみ生産性が二%上昇する傾斜した経済成長を仮定した場合、世界そして発展途上国（フィリピンを除く）にとってプラスの効果をもたらすという結果になった。

またそのような傾斜した経済成長のケースは、偏りなく全体的に全要素生産性（TFP）が二%上昇した場合に比べて、世界貿易はより大きく拡大するという結果になった。

傾斜した成長のケースでは、中国とインドは重工業やハイテク製造業の生産を拡大させる一方で、繊維、アパレル、皮革、化学、鉱業などの生産を縮小させる。その結果、他の国々においては中国・インドで縮小する軽工業などが成長する余地が生まれる一方で、機械や自動車などの部門では生産が縮小する。そうなれば、日本が輸出による急成長を達成していた時期にそうであったように、各所からの政治圧力がかかることが予想される。両国は、外交政策面で十分に留意する必要があるだろう。

●おわりに

本報告では、中国とインドの急速な経済成長が両国および第三国にどのような影響を与えるかを検証した。

我々の予測では、中国とインドが、互いの経済開発にダメージを与えることなくそれぞれが輸出を大きく拡大する可能性があることを示した。とはいえ、中国とインド

がより高い成長率を達成した場合には、両国の製造業輸出の拡大が世界における製造業輸出の競争を熾烈化させ、製造業品を輸出する他の国々に対して負の影響が出るであろう。中国・インドが輸出品の品目を増加させ、品質を向上させれば、世界および自らにとっても大きな恩恵をもたらす可能性がある。そうなれば、両国の急速な輸出拡大がもたらすであろう交易条件の悪化の影響を打ち消すことができるであろう。中国・インドに追いついて輸出拡大の努力を怠ると、なかには輸出シェアを落したり、ハイテク製造業品生産が縮小する国も現れるであろう。中国がより高度で、バラエティに富んだ新しい製造業品を生産するようになる、それはいくつかの国にとって加工産業拡大のチャンスとなるであろう。

中国とインドがハイテク産業や重工業に偏った成長をすると、均等な成長をした場合よりも貿易に与える影響はより大きくなる。このシナリオでは、ハイテク産業における競争が熾烈化し、世界市場において両国が他のハイテク製品の生産国にとってかわるといふ大きな構造変化が起こるかもしれない。その一方で軽工業においては他の途上国にとって生産拡大のチャンスとなるであろう。

(William John Martin / 世界銀行リードエコノミスト)